

こやまさんと
かとうさん
うみへいく



こやまさんとかとうさん

こやまさんとかとうさんはだいのなかよしです。

あるひかとうさんがいいました。

ねえこやまさんわたしうみへいってみたいわ。

こやまさんはいいました。

かとうさんうみをみたことないの？

かとうさんはだまってしまいました。

こやまさんはこまってしまいました。

いいわじゃあいきましょう。

こやまさんはかとうさんにいいました。

うみ

ふたりが うみに ついたころには

あたりは まっくらに なっていました。

うみが よくみえない。

かとうさんは ぽつりと いいました。

こやまさんは かとうさんを みました。

かとうさんの かおは すこし おうどいろに みえました。

こやまさんは いやな よかんが しました。

そのまま こやまさんは みなかったことに しました。

くちぶえ

それからしばらくのあいだふたりはぼうっとうみをながめていました。

するとどこからともなくおとがきこえてきました。

ふとこやまさんがよこをみると

かとうさんがくちぶえをふいていました。

こやまさんはかとうさんにたずねました。

かとうさん どうしてくちぶえをふいているの？

かとうさんはなにもこたえませんでした。

すこしかおいろがもどっているきがしました。

しばらくしてかとうさんはなにかをゆびさしました。

びん

かとうさんがゆびさしたさきをこやまさんはみました。

するとうみのむこうからちいさなびんがながれてきました。

かとうさんはむごんでたちあがりしました。

そしてうみにじゃぶじゃぶとはいっていきました。

こやまさんはおどろいてただぼうっとみていました。

ずぶぬれになったかとうさんのてには

ちいさなびんがにぎりしめられていました。

こやまさんはすこしこわくなりました。

なぜならかとうさんのかおがまたすこしおうどいろになっていたからでした。

なかみ

こやまさんは ききました。

かとうさん そのびんには なにが はいっているの？

かとうさんは いいました。

こやまさん このこと だれにも いっちゃあだめよ。

かとうさんは びんを そうっと こやまさんに わたしました。

こやまさんは おどろきのあまり こえが でませんでした。

そのびんのなかには ちいさなこびとが はいっていたのです。

こびとは たすけてくれと いわんばかりに

うちがわから びんを どんどんと たたいて いました。

かとうさんは はまべから それが みえていたのです。

こやまさんは かとうさんの しりよくにも おどろきました。

ひとまず ふたりは こびとを びんのまま いえに もって かえりました。

だんろにあたったかとうさんのかおいろはもとにもどっていました。

そうですさむさのあまりにかとうさんのかおはおうどいろになっていたのです。

(つづく)